

SHIN CLUB 291

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「神宮前マンション」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

暮らしを紡ぐ

江戸時代の集合住宅ともいえるべき「長屋」。細長い建物に複数の世帯が入居して、日々の暮らしが営まれてきました。独立した居住空間の集合体である現代のマンションとは異なり、そこに住む人のすべてが井戸や厠、路地などの生活スペースを共有することで、お互いを助け合う空気が自然と生まれ、人情味あふれる豊かなコミュニティが形成されてきました。なかでも「夕立に取り込んでやる 隣の子」という川柳は、突然の夕立で洗濯物を取り込もうと外に出た主婦が、長屋のはずれで遊ぶ隣の子を見つけ、家に戻してあげる様子をユーモラスに描いています。やがて、そのような密なコミュニケーションは、核家族化の進行とともに、多くの人たちから敬遠されるように。隣近所とのコミュニケーションが希薄になり、孤立の度合いがますます深まっている現在、地縁による支え合いの文化をもう一度見直そうとする動きが、若者や高齢者たちを中心に広がっています。住人が日常的に行き交い、ゆるやかなつながりを生み出す両側町のような空間。長屋の伝統を継承しつつ、これからの時代にふさわしい暮らしのあり方を提案するのが、今回ご紹介する共同住宅「神宮前マンション」です。

一歩進んで、コミュニティーづくりのきっかけになることを期待しています。このヴォイドは敷地のなかだけで完結するものではなく、周囲へとつながる街路のようなイメージで設計しました。生活に彩りを添える通路の存在を、建て主様も気に入ってくださり、とても嬉しく思っています」と、江島氏はいいます。

神宮前エリアは、表参道・原宿・青山のアクセスがよく、竹下通りやキャットストリートは常にたくさんの若者たちであふれています。ところが路地に入れば、そこに広がっているのは閑静な住宅街。しかも計画地の西側には、5m近い擁壁がそびえています。「はじめて敷地を訪れたときに、高い擁壁がどこか人を拒絶しているような印象を受けました。やはり視界に抜けがあったり、明かりが灯ったりしていないと、どうしても暗い雰囲気になってしまいます。そこで、擁壁の一部に通抜けのできる開口を設け、そこから人の営みが滲み出るようにしました。その一方で、通路の両端にはかつて江戸の町にあった木戸のようなものを設置して、夜間のセキュリティにも配慮しています」（工藤氏）

「街に織り込まれ、人と人との豊かな関係を育む環境をいかに実現させるか。その点に注力しました」と語るのは、設計を担当した有限会社 awn の工藤徹氏と江島史華氏。敷地を貫く通路が、訪れた人の目を引きまします。「敷地の真ん中に道を通して、両側の住戸が向き合う形にしました。ヴォイドを介して、住人同士がお互いの存在を知覚し合える仕組みです。同じ場所に住んでいるところからもう

「神宮前マンション」には多様なサイズの住戸が各階に用意されており、スタジオや店舗、オフィスなどの幅広い用途にも対応し得る懐の深さを備えています。トップダウンで決定するのではなく、さまざまな人たちのアイデアを尊重して、みんなで共有したからこそ実現できたプロジェクトだったと振り返る江島氏。伝統の知恵と現代の感性が融合した新たな暮らしの1ページが、ここからはじまります。

神宮前マンション



貸室エントランス。視線がどう抜けるかを計算し、ガラスの透明度を調整



やがて豊かな緑で覆われ、道に対する「顔」に



木戸をイメージした門扉



屋外に吊るされた照明も、建物のシンボルに



ネットワークの可能性を広げるヴォイド

「関係を育む仕組みを作る」という思いを込めて

ヴォイドの幅は2間(約3.6m)。路地のようなスケールとした。ただの住宅ではなく、通りと関係が作れるような「仕組み」を作った。「仕組み」をきっかけに、このマンションが活動と交流の場になることを期待している。

向かい合う住戸の壁面はガラス張りとし、透明度に濃淡の差を設けた。視線が抜ける部分とそうでない部分を調整することで必要なプライバシーを保ちつつ、通路には生活の雰囲気の流れ込む。ガラス面には木の方立を使用し、無機質な素材に温かみのあるアクセントを加えた。道はゆるやかなスロープになっており、各住戸の玄関との間に高低差が生じる。そのため、通りを歩いている人と住んでいる人との目線は同じレベルにはない。そのちょっとした距離感のずれが、居心地の良さにつながっている。

不整形な土地にまっすぐな道を通したことで、形にも大きさにもバリエーション豊かな住戸が生まれた。サイズは、20㎡から70㎡のものまでさまざま。スタジオとして使用できるほどの天井高をもつ部屋もあれば、ファミリータイプの部屋もあり、将来的には、職住一体の暮らしを実現するだけのポテンシャルをもたせている。

擁壁側の入口は人を迎え入れるアーチとし、その周りにメッシュを張ってグリーンで覆うことで、街に対して優しい印象となるように意図した。通路の両端にあるルーバー門扉は、江戸の町にある木戸をイメージ。視界の抜けが、住人の毎日の暮らしに活気と安心感をもたらす。

外壁には、かつてあった建物と同様のベージュに近い色を選んだ。「神宮前マンション」の名前もフォントも以前のままに。建て主様も、引き続き2世帯4世代で住まれる。建て主様の住戸においては、リビングと一体化できる複雑な形状の土間が結節点となって、大家族の営みをつなぐ。建物全体の特性が住戸のなかにも再現されていることに気づいたとき、「私たちは改めて環境を作っているのだ」という思いを強くした。

(awn / 工藤徹氏・江島史華氏 談)



最上階の主邸。広々とした土間は 家族の交流の場に



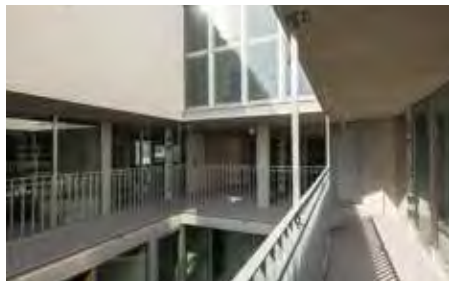
ロフト付きのお部屋も



住心地を良くする中間領域



2世帯4世代の生活を支えるダイニング



2階通路。SOHOを意識し、寝室は3階へ

所在地: 東京都渋谷区神宮前3-15-19
 構造: RC造
 規模: 地上3階・地下2階・塔屋1階
 用途: 共同住宅
 設計者: awn
 担当: 工藤 徹・江島 史華・平山 龍太郎・友杉 明香 (AWN)
 竣工: 2024年1月
 施工担当: 池上・伊藤・齋藤 (歩) (池上チーム)
 撮影: アック東京



Toru Kudo



Fumika Ejima

今月は、「神宮前マンション」の設計を担当された、awnの工藤徹氏と江島史華氏にお話を伺います。

— 今回の建物では、外観よりもむしろ仕組みづくりを強調されていたのが印象的でした。どのようにして、その考えに行き着いたのでしょうか。

江島：自分の人生のなかで感じてきた不自由さに対する表出が、深いところで仕組みづくりを推進する原動力になっているような気がします。たとえば、学生のころに住んでいたアパートは、従来の価値観でつくられたものでした。数年間そこに住んでいましたが、果たして私の生活は楽しく豊かなものだったか。住むことと働くことは本来シームレスなはずなのに、ビルディングタイプとしては明確に区別されています。家は、プライベートの時間を過ごすための場所と決めつけられてしまっており、もう少し自由な住まいのあり方を追い求めていきたいとの想いが、設計の根底にありました。

また、「制度を疑え」と代表の北山も常に口にしています。今まで当たり前とされてきたものが、実は当たり前ではないのだということなのだと思います。

工藤：建築を勉強する際、その必要性をゼロから考えるために、まずは固定観念を壊すところから教わるのです。

私の場合、きっかけになっているのは、「正しさ」に対しての疑問でした。正しさだけを追い求めると、ほかのものを排除することにつながってしまいます。それよりも、いろいろなきっかけや仕組みをつくることを大切にしたいと考えています。設計者の意図を押しつけ過ぎることなく、ある程度、住み手の自由な発想に委ねる。そこから、暮らしの多様性もきっと生まれてくるはず。北山自身、住む場所に対してどのようなつながりをつくっていくのかを1番大事にしており、その想いは事務所のメンバー全員が共有しています。

江島：私たちの仕事はクライアントワークですが、建て主様の要望に応えることはもちろん、もっと大きなところに向かっていかなければならないという感覚があります。それが先ほどもお伝えしたとおり、「今まで当たり前とされてきたことが本当にそうなのか」と、疑うことにもつながっています。建築は実物として存在してしまうものなので、「都市を形づくっているんだ」という大きな意識や責任感は、常に抱いていますね。

— 設計にあたり、建て主様からのご要望はありましたか。

江島：はじめにいただいた具体的な要望を盛りこみながら、ヴォイドをはじめとした周囲と関係し合うような建築を提案するなかで、快適な住空間だけではなく、生活と仕事と遊びが混在した土地には、どのような建築がふさわしいのかということまで真剣に考えてくださいました。「周囲の人たちからも、この建物ができてよかったと思われるものにしたい」とおっしゃっていただいて、非常にありがたく感じました。

以前の建物においても、居住者や地域の人たちとの良好な関係を維持されてきた建て主様だったからこそ、「お互いが関係し合える建築」「街に編み込まれる建築」という私たちのコンセプトに、リアリティがもてたのだと思っています。

— 実際に人が住みはじめると、また違った景色が見えてきそうですね。江島：共同住宅はいろいろな人が関わってくる建築なので、おもしろいなと思います。地域の人や住む人たちの暮らしがどのように変化していくのか、これから建物の真価が問われてくるのではないのでしょうか。工藤：建物は竣工を迎えて完成ではなく、あくまでもそれは途中の出来事だと思っています。建物を通して、これから先も営みは続いていくからです。建て主様がいらっしゃるというのは、その人柄のように、それだけで建物の雰囲気を決める側面があります。その良さが出て、建物全体に伝播していき、時間が経つほど味がでるといいますか、その流れを自分たちがどのようにつないでいくのかは、とても重要な点だと思っています。

— 最後に、どのような点に注力されたのか教えてください。

江島：今回の私たちの設計の進め方は、いろいろな人のさまざまな概念やアイデアを共有して、良いものを選択していくプロセスでした。結果、より多様で可変性のある建築に近づけたのではないかと感じています。

工藤：私は、「壁とドアで住戸が仕切られ、屋内は高気密・高断熱で満足しているから、周囲とコミュニケーションを取る必要がない」という状態ではなく、何か可能性のあるネットワークが形成されていくような建築を目指しました。必ずしも、住んでいる人同士が仲良くなる必要はありませんが、たまに目が合ってあいさつし合えるような、ゆるやかな関係性を築けてもらえたらいいなと思っています。

— 本日はどうもありがとうございました。

工藤 徹 (くどう とおる)

1974年 千葉県生まれ
1997年 多摩美術大学美術学部建築科 卒業
1997年 architecture WORKSHOP
2004年 architecture WORKSHOP パートナー
2021年 awn coo

江島 史華 (えじま ふみか)

1991年 神奈川県生まれ
2016年 横浜国立大学大学院 Y-GSA 修了
2016年 architecture WORKSHOP
2021年 awn coo

TOPICS/INFORMATION

「第3回 FC 町田ゼルビア パートナー対抗ミニサッカー大会」に参加 — ゼルビアフットサルパーク —

5月12日(日)、弊社がスポンサーをしているプロサッカーチーム、FC町田ゼルビア主催「第3回 FC 町田ゼルビアパートナー対抗ミニサッカー大会」に参加しました。

本大会は、同じくスポンサー企業8社対抗試合で、A・Bリーグに分かれ、その上位チームと下位チームでトーナメント戦をおこない順位を競うものです。当日は、ゲストにテレビなどで活躍するお笑い芸人の方々も登壇・参戦し、会場は終始盛り上がり方を魅せました。



ボールを奪い速攻をかける岩本

界。ここで初勝利を狙います。試合の雰囲気にも慣れてきたSFCメンバーがここで覚醒。先制



第2建築部キャリア採用の川口 第1建築部 谷田のスーパーセーブ点を許してしまいますが、鍋島と総務部 川上による得点で猛追。結果4-2と初の白星となりました。

その後休憩を挟み、上位・下位のトーナメント戦をおこない総合順位争いをおこないました。SFCは下位トーナメント優勝を果たし、最終結果は総合5位となりました。

BリーグにエントリーとなったSFC(Shin Futsal Club)。第1戦目の相手は、未来への新しいマーケティングをご提案するマイクロアド社。慣れない公式戦ということもあり先制点を許してしまいますが、その後、第1建築部 鍋島による得点を機に、逆転の好機を狙います。しかし惜しくも追加点を許してしまい、1-2と黒星スタートとなってしまいました。第2戦目の相手は、芸人さんとゼルビアスタッフによって構成されたスペシャルチームとの対戦。得点を許してもらえず0-3という結果に終わりました。グループリーグ最終戦の相手は、建築工事におけるスラブ用デッキプレート関連の設計・施工・販売をおこなう日栄鋼材社。怪我な



く試合を楽しむことが目的ですが、やはり勝利の瞬間はより一層楽しめるのがスポーツの世

激しい攻防を繰り広げたりと、手に汗握る熱い試合が続く

公式戦に不慣れということが仇となり、調子が出るまでに時間がかかってしまった結果、順位が振るわなかったと反省し、今後の課題として練習に取り組んでいきたいと思います。

年内に第4回大会が予定されている本大会。次回は優勝を目指します!



集合写真。次回大会は優勝します!

現在首位争いが激しいJ1リーグ。FC町田ゼルビアの優勝を、社員一丸で応援しています。

SFCは練習試合などの外部交流を随時受け付けています。ご興味のおありの方は、お気軽にお問合せ下さい。

池田建設の「日本多邸保存改修プロジェクト」 合同現場見学会

4月26日(木)、SC283号で掲載しました、弊社グループ会社 池田建設(株)が手掛ける「日本多邸保存改修プロジェクト」が竣工を迎え、それに伴い各社合同現場見学会が開催されました。



改修工事後の「日本多邸」全景

国指定の登録有形文化財として指定されている「日本多邸」。1938年に竣工した本建物は、「久米式耐震木骨構造」という構造方式を取り入れた2階建て木造建築で、当時の時代背景としては珍しい洋風な外観が印象的

的です。



室内洋間。建具などは既存利用

竣工以来、約80年間もの間、大規模な改修工事をおこなっていなかったこともあり、1年4か月にも及ぶ工事期間となりましたが、施工前とは比べ物にならないほどに生まれ変

わった「日本多邸」に各社社員から驚きの声が上がりました。歴史的にもとても貴重な建築物を間近で見学できたことは非常に勉強になり、大変有意義な経験となりました。

今後は、地域イベントや宿泊施設など、歴史的な建物を肌で感じることでできる場所として使用される予定です。



久米式耐震木骨構造の屋根裏部屋。既存構造を壊さない様復元した。



池田建設様、ありがとうございました

【日本多住宅宅主屋】

所在：神奈川県逗子市山の根二丁目297
 建築時期：昭和前 / 1938年頃
 構造・規模：木造2階建・スレート葺・建築面積216㎡ / 1棟
 設計：株式会社久米設計
 ■登録有形文化財(建造物)
 登録年月日：2022.10.31

【お詫びと訂正】

SHINCLUB290号2ページ掲載記事「作品介绍：WHARF 六本木」の記事内、建物概要の竣工年月に誤りがありました。正しくは「竣工：2024年1月」となります。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

・来年3月に、「SHINCLUB」は創刊300号を迎えます。会社設立より発行している本紙。ここまで途切れることなく続けてこられたのは、お客様・建築家の皆さまからご愛顧いただいた結果だと強く思います。現在記念イベントを計画中です。詳細が決まりましたら、本紙にてご案内させていただきます。

(株)辰通信 Vol.291 発行日2024年6月10日

編集人：本間夏来/村上由衣/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail : daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でご覧いただけます。

バックナンバーもPDFで掲載しています。

スマホはこちらから→

